

<電車>
 東京駅から 内房線「特急ささなみ」(館山行き)
 「保田駅」、もしくは「安房勝山駅」下車(約1時間30分)
 千葉駅から 内房線(館山行き、安房鴨川行き)
 「保田駅」、もしくは「安房勝山駅」下車(約1時間30分)
 <車>
 東京、千葉方面から
 京葉道路→館山自動車道→富津館山道路「館南保田IC」
 →館南(約1時間20分)
 横浜、川崎方面から
 東京湾アクアライン→木更津IC→館山自動車道
 東京湾アクアライン「館南保田IC」
 →富津館山道路「館南保田IC」
 →川崎から約45分

アクセス方法

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 83

早春 花の便り
 ～千葉県 鋸南町～

2013年2月3日(日)放送



食用の菜の花、ナノ。花が咲く前のつぼみを出荷してお
 ひたしやあえものなどとして食卓に香を届けます。戦後コ
 ムの真作として広がっており、鋸南町は全国一の生産量を誇る千
 葉県のなかでも主要な産地になっています。1度収穫した
 後も何度も花芽を伸ばすナノのたくましさは農家の人
 たちも元気をもらっています。暮らしを支える畑は収穫を
 終えると黄色い花畑に変わり、町の人たちに早い春が近づ
 いてきたことをしらせてます。

春を届ける食用の菜の花

旅の見どころ 3

ノコギリの歯を立てたような姿から鋸山(のこぎりやま)と呼ばれる山の南に開けた鋸南(きよなん)町は、冬でも肌着1枚いらないといわれる温暖な気候に恵まれ、花の栽培がさかんです。冬、山の斜面を彩るのは水仙の白。そして食用の菜の花の畑が収穫を終えて黄色く染まると、町に春が近づきます。それぞれの“花”と向き合う暮らしを訪ね、ひと足早い春を感じる旅です。



温暖な南房総は、壱峰(みこばち)の越冬地としても知られています。鋸南町周辺の山々には、この時期、壱蜂の集落が点在しています。東北地方で養蜂業を営む人々が、雪が積もり始める12月に集箱を運び込み、北国に花が咲く4月末まで越冬させているのです。蜂たちは、冬も花の絶えぬことのない土地で花粉を集めて子育てをし、春に故郷に戻ったとき、すくすくに働ける力を蓄えます。

北国からのお香 越冬壱蜂(みこばち)

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

山里を彩る水仙の花

房総丘陵が海の近くにまでせまる土地で、この季節、山の斜面を真っ白に彩るのが日本水仙です。毎年12月から2月にかけて香り高い小さな花を咲かせます。温暖な気候の鋸南町一帯は江戸時代から水仙の自生地として知られ、大正時代以降、花卉(かき)栽培が本格化しました。町で水仙を栽培する農家はおよそ200戸。人々は代々受け継いだ山に球根を植え、長い年月をかけて水仙の山へと変えてきました。新春を飾る切り花として出荷され、山間の集落の暮らしを支えています。

